

## 卒業の準備 その1

国立の前期試験が本日をもって終了いたします。この後は、3月1日の卒業式の準備の期間です。私と監督部長とキャプテンは、昨日に引き続いて、知事表敬と教育長表敬にまいります。その後に、毎日新聞社福島支局を訪問します。

帰校の後、学校評議員会を行い、運営委員会を行います。

NHK福島支局に橘高校で教えていた女性アナウンサーがおり、会うのを楽しみにしていました。彼女は、生徒会長をしており、マスコミ方面への就職を考え、早稲田に入学し、その後、FM群馬に就職。そこまでは、風の便りで知っていましたが、ある日、浜・中・会津の番組の中に登場したのを見る機会があって、そうか帰ってきたのだなと深い思いをもって感慨に浸ったことがありました。

高校時代は様々な悩みに襲われる時期です。どんなに精神的に安定さを保有している人物でも、ある日を境にもろく崩れる時期もあるのが、高校生です。

そんなときに大切なのは、ことを大げさにするのではなく、おいしい食べ物や面白い本や感動した映画の話をする事だと経験的に知っています。

事の真相を抉り出すのはもう少し落ち着いてからで、その問題の渦中にいるときには、不安定要素をいかに取り除くことができるか、不安定要素ではないところに心を置くことができるかなのではないのでしょうか。

私は、つらい時期には、よくゴルフのショットのことばかりイメージします。ボールに当たるアイアンの角度やターフの取り方から、ボールの回転のかけ方のイメージを重ねていきます。

いつもこの本に戻るといいうのもあります。村上春樹の短編集や、高橋和巳の「わが解体」や森有正の「霧の朝」に戻ります。すると、その当時の苦しさからの逃れ方や考え方の転機を思い出して、心の重さがふっとなくなります。

そんなことを語ったのでしょうか。彼女もある事から回避できる力を見出し、自分の志を遂げて、福島に戻ってきてくれました。こんなことがたくさん起こると、心が励まされます。

卒業式には、たくさんの祝福と、たくさんの感謝が行き交うことでしょう。涙もろい爺さんは、ちょっと言葉に詰まることもあるでしょうから、そのところはどうぞこんなものであると見ていただいて、生徒たちの姿を心から皆さんで喜びましょう。

もはや主権者たる成人の資格を18歳が所有する時代です。社会の悪意も取り払いながら自分で進まなければなりません。その時に、すぐそばにいてくれる友人の大切さをもう一度確認して、荒海に出ていきましょう。

危険な時にはすぐに港に帰る事です。危険を予知し、危険を避ける方法を身に付け、ともに進む友人を見つけ、進んでほしいものです。

子どもたちと楽しいひと時が遅ればと心から願っております。